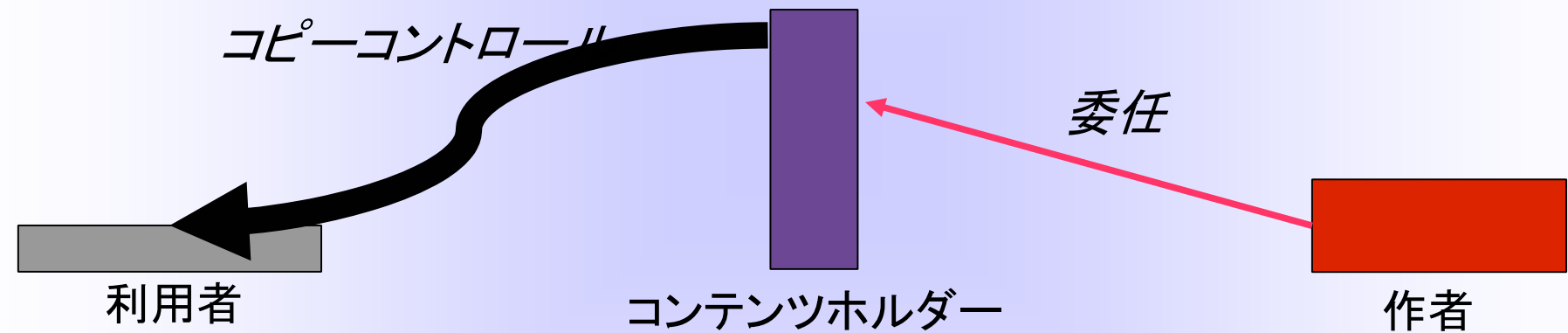


2004年度未踏ソフトウェア創造事業

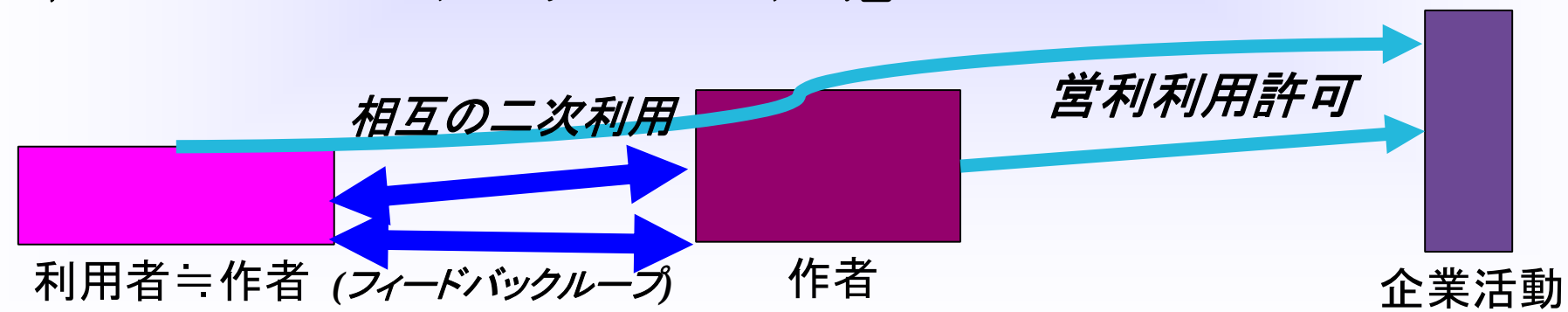
(共用著作物を利用したコンテンツ作成 システムのためのフレームワークの開 発)

開発者:木戸 崇裕

世間で一般に言われる DRM (デジタル著作権管理)



本システムの目的である同意に基づいた DRM



提供する意義

- こうした著作物の公共財としての側面を大切にしようという考え方は、GPLやCreative Commons などライセンスとしては存在する
 - しかしながら、オープンソースこそ有名なものの、こうした考え方が世間に普及しているとは言い難い
 - こうした形でのDRMもありうるのだということを世に示す
 - それには1つのアプリケーションで提供するよりも、どのアプリケーションにも組み込んで使えるものになった方が良い
 - ライセンスをいちいち人の手で確認していくのは面倒
 - こういうことは機械にやらせるべきである